

酸銀を 0.1 mol/L チオシアン酸アンモニウム液で滴定する (指示薬: 硫酸アンモニウム鉄 (Ⅲ) 試液 2 mL). 同様の方法で空試験を行う。

0.1 mol/L 硝酸銀液の消費量は 1.0 mL 以下である。

**定量法** 本品約 0.15 g を共栓フラスコに精密に量り、メタノール 10 mL に溶かし、直ちに 0.05 mol/L ヨウ素液で、液が微黄色を呈するまで滴定する。同様の方法で空試験を行い、補正する。

0.05 mol/L ヨウ素液 1 mL = 6.211 mg  $C_3H_5OS_2$

#### 貯法

保存条件 5°C 以下で保存する。

容器 気密容器。

## ジメルカプロール注射液

Dimercaprol Injection

本品は油性の注射剤で、定量するとき、表示量の 95 ~ 105 % に対応するジメルカプロール ( $C_3H_5OS_2$ : 124.23) を含む。

**製法** 本品は「ジメルカプロール」をとり、注射剤の製法により製する。本品には溶解性を増すため、「安息香酸ベンジル」又は「ベンジルアルコール」を加えることができる。

**性状** 本品は無色～淡黄色澄明の液で、不快なおいがある。

#### 確認試験

(1) 本品の表示量に従い「ジメルカプロール」0.03 g ずつに対応する量を取り、それぞれ「ジメルカプロール」の確認試験 (1) 及び (2) を準用する。

(2) 本品の表示量に従い「ジメルカプロール」0.03 g に対応する量を取り、水 20 mL を加えてよく振り混ぜた後、「ジメルカプロール」の確認試験 (3) を準用する。

**定量法** 本品のジメルカプロール ( $C_3H_5OS_2$ ) 約 0.2 g に対応する容量を正確に量り、フラスコに入れ、ピペットはメタノール/クロロホルム混液 (3:1) で数回洗い込み、更にメタノール/クロロホルム混液 (3:1) を加えて 100 mL とし、0.05 mol/L ヨウ素液で持続する黄色を呈するまで滴定する。同様の方法で空試験を行い、補正する。

0.05 mol/L ヨウ素液 1 mL = 6.211 mg  $C_3H_5OS_2$

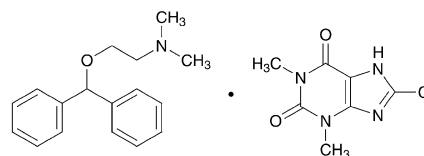
#### 貯法

保存条件 冷所に保存する。

容器 密封容器。

## ジメンヒドリナート

Dimenhydrinate



$C_{17}H_{21}NO \cdot C_7H_7ClN_4O_2$ : 469.96

*N*-[2-(Diphenylmethoxy)ethyl]-*N,N*-dimethylamine — 8-chloro-3,7-dihydro-1,3-dimethyl-1*H*-purine-2,6-dione (1/1) [523-87-5]

本品を乾燥したものは定量するとき、ジフェンヒドラミン ( $C_{17}H_{21}NO$ : 255.35) 53.0 ~ 55.5 % 及び 8-クロロテオフィリン ( $C_7H_7ClN_4O_2$ : 214.61) 44.0 ~ 47.0 % を含む。

**性状** 本品は白色の結晶性の粉末で、においはなく、味は苦い。

本品はクロロホルムに極めて溶けやすく、エタノール (95) に溶けやすく、水又はジエチルエーテルに溶けにくい。

#### 確認試験

(1) 本品 0.5 g を希エタノール 30 mL に溶かし、水 30 mL を加え、試料溶液とする。試料溶液 30 mL を分液漏斗に入れ、アンモニア水 (28) 2 mL を加え、ジエチルエーテル 10 mL ずつで 2 回抽出する。ジエチルエーテル抽出液を合わせ、水 5 mL で洗った後ジエチルエーテル液を薄めた塩酸 (1 → 100) 15 mL で抽出する。水層を分取して検液とし、次の試験を行う。

(i) 検液 5 mL にライネック塩試液 5 滴を加えるとき、淡赤色の沈殿を生じる。

(ii) 検液 10 mL に 2,4,6-トリニトロフェノール試液 10 mL を滴加し、30 分間放置する。沈殿をろ取し、希エタノールから再結晶し、105°C で 30 分間乾燥するとき、その融点は 128 ~ 133°C である。

(2) (1) の試料溶液 30 mL に希硫酸 2 mL を加え、30 分間冷却した後、器壁をしばしばこすとき、白色の沈殿を生じる。沈殿をろ取し、氷水少量で洗い、105°C で 1 時間乾燥するとき、その融点は 300 ~ 305°C (分解) である。

(3) (2) で得た沈殿 0.01 g に過酸化水素試液 10 滴及び塩酸 1 滴を加えて水浴上で蒸発乾固するとき、残留物は黄赤色を呈する。また、これをアンモニア試液 2 ~ 3 滴を入れた容器の上にかざすとき、赤紫色に変わり、その色は水酸化ナトリウム試液 2 ~ 3 滴を加えるとき、消える。

(4) (2) で得た沈殿 0.05 g をニッケルするつばにとり、過酸化ナトリウム 0.5 g を加えてよく混ぜ、加熱して融解する。冷後、融解物を水 20 mL に溶かし、希硝酸を加えて酸性とするとき、液は塩化物の定性反応を呈する。

**融点** 102 ~ 107°C

#### 純度試験

(1) 塩化物 定量法 (2) で得たろ液 50 mL をネスラー管にとり、硝酸 1 mL を加えて 5 分間放置するとき、液の混濁は次の比較液より濃くない。